

第 1 章 子育ての気がかり・情報環境

第 1 節 現在の子育ての気がかり

第 2 節 現在の一番の気がかり

第 3 節 しつけや教育の情報環境

第 4 節 とくに参考にするしつけや教育の情報環境

情報教育研究所所長 山岡 テイ



第1節 現在の子育ての気付き

「犯罪や事故に巻き込まれること」や「放射性物質による健康への影響」など子どもの安全への危機意識が高いと同時に、まずは身の周りの整理整頓に始まる見通しをつける力で学習習慣をつけて欲しいと願っている。

健康や生命にかかわる危機意識が高い一方 生活習慣の自立、進路や勉強が関心事

毎日の子育てのなかでの子どもや母親自身の「悩みや気付き」を38項目から複数回答してもらった(図1-1-1)。

選択肢は日常の自立状況、生活習慣や環境問題、子どもの心身の成長発達、性格や態度、遊びやしつけ・教育、母親自身の子育て生活のようすなど多岐にわたっている。

それらのなかから小・中学生全体をとおして、「犯罪や事故に巻き込まれること」と「整理整頓・片づけ」が同じ55.7%で1位にあげられていた。小・中学生が被害者となる不穏な犯罪や事故に対して、保護者や教育関係者の危機意識が高いことを示していた。

2007年調査時に「犯罪や事故に巻き込まれること」という命にかかわる選択肢が加わったが、それ以前の1998年・2002年調査では「整理整頓・片づけ」が子育ての悩みの1位であった。その背景としては、「整理整頓・片づけ」能力は、「翌日の学校の用意や準備」や「計画的な勉強」との関連が高いことが明らかである。

母親は、目に見える空間での具体的な子どもの整理整頓や片づけ能力(見通しをつける力)の欠如を他の能力の欠如も象徴する不安材料として経験則的に懸念しているように思われる。

2011年の結果に戻ってみると、3位には「友だちとのかかわり方」が41.1%で、4位には「放射性物質による健康への影響」が

38.1%であげられていた。東日本大震災の半年後の調査であったことから、「放射性物質による健康への影響」を回答した人は、ほかの関連する設問である「食の安全性」や「外での遊び」、「犯罪や事故に巻き込まれること」も気付きとしている傾向がみられた。

上位4項目のほかには、小学生では生活習慣の自立やしつけに関すること、中学生では「子どもの進路」や学習に関することが気付きや関心事の中心としてあげられていた。

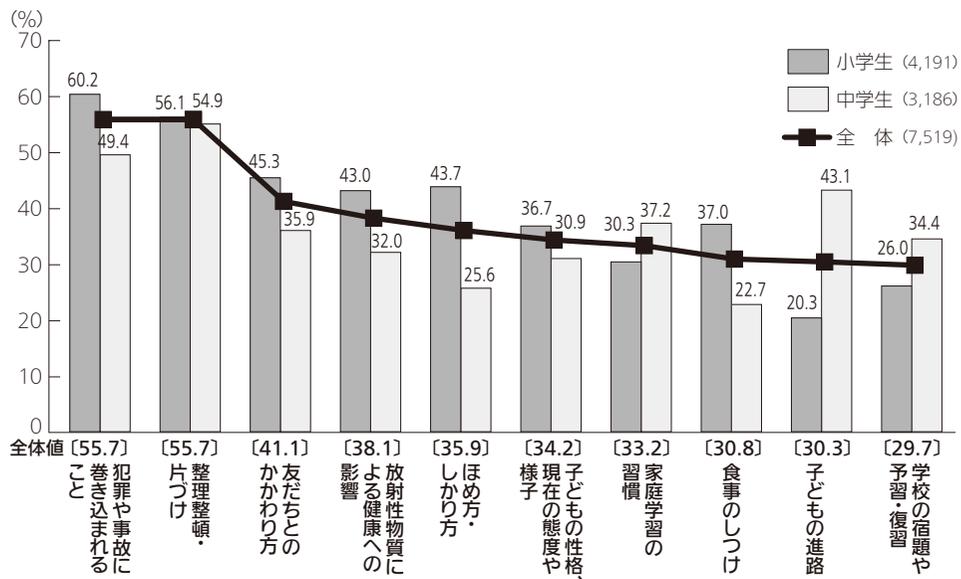
食育や生活習慣の自立性は減少 将来に向けた学習力の育成へ移行

1998年から今回までの4つの調査のなかで変化した項目を経年比較した(図1-1-2)。小3生から中3生の比較であることと、設問項目数や内容がその時節に合わせて多少変化していることを考慮しながら推移の傾向をみていきたい。

この間、子どもの生活と学習に関する項目の変化をみると、減少した項目は、「食事のしつけ」「子どもの食事のとり方」「生活リズムと朝起きる時間・夜寝る時間」で、増加したのは「学校の宿題や予習・復習」「子どもの進路」であった。つまり、小3～中3生の母親の将来に向けての日々の気付きは、生活習慣の自立よりも、学習力の育成へと関心が移行していた。

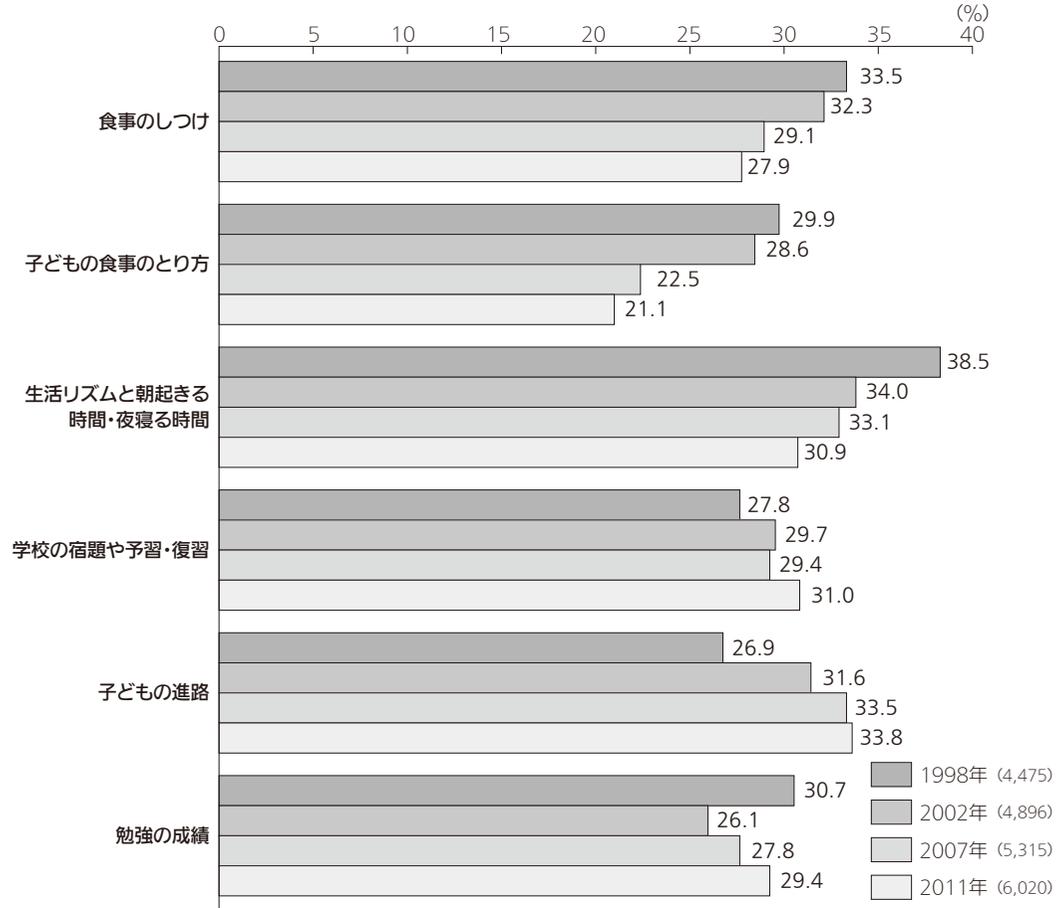
この間、社会的には食生活への親の意識を反映した2005年の食育基本法の制定や

図1-1-1 現在の子育ての気がり（全体、学校段階別）



注1) 複数回答。38項目中、全体値の上位10項目を図示した。
 注2) ()内はサンプル数。

図1-1-2 現在の子育ての気がり（経年比較）



注1) 複数回答。38項目中6項目を図示した。
 注2) 小3～中3生の数値。
 注3) ()内はサンプル数。

その後の「早寝・早起き・朝ごはん運動」など、「食育」を奨励する活動が起きている。しかし、「食育」の意義は理解しても母親の関心事は、子どもの命の安全性の確保とこれからの不安な経済社会を生き抜くための学力を身につけさせたいという切実な本音が本調査結果には表出していた。

男子は低学年で食育や宿題の習慣を
女子は安全第一、友だち関係が関心事

次に、学年別・性別に詳しく母親の気がかり・悩みについてみてみたい。

<小学生>

子育ての気がかりや悩みの上位10項目を学年ごとに性別で比較したのが表1-1-1と表1-1-2である。

小1生では食育関連が3項目あり、「食事のしつけ」は男子が11.2ポイントも女子より多かった。しかし、「食事のしつけ」は学年が上がるにつれてその順位が下降し、小6生では11位となる。また、中学年以降では「子どもの性格、現在の態度や様子」に

とくに男子の母親の関心が高くなっていた。また、2007年には小学生では10位以内にはなかった「学校の宿題や予習・復習」が小2生で「家庭学習の習慣」とともに初出した。変化する学校の指導に対応して低学年から宿題や家庭学習のしつけをしておきたいと願う母親の思いと不安感があらわれているように思われる。

一方、女子は「犯罪や事故に巻き込まれること」が全体的に男子より高く、母親の心配のようすがあらわれていた。小学生段階では小4生を除く5学年で1位になっていた。とくに小2生、小4生、小5生では男子に比べて大きな差があり、1人で出歩く機会が増える年齢段階とも関連している心配事である。

また、「友だちとのかかわり方」は、各学年で3～4位にあげられており、とくに女子に多い気がかりである。特定の友だち同士での親密感が増す中学年では、母親の関与が深まり不安感も増加しているようにみえる。

2007年調査では多くの学年で10位以内であった母親自身の「人間関係」や「からだの健康」は今回は小6生に残ったのみで、

表1-1-1 現在の子育ての気がかり（全体、学年別/性別）①

(%)

順位	全体 (全体7,519)	男子3,806 (女子3,692)	小1生 (全体666)	男子343 (女子323)	小2生 (全体691)	男子334 (女子357)	小3生 (全体689)	男子356 (女子331)	小4生 (全体751)	男子353 (女子397)
1	犯罪や事故※ 全体 55.7	男子 50.2 女子 61.3	犯罪や事故 62.9	59.5 66.6	犯罪や事故 65.4	57.8 72.5	犯罪や事故 61.0	56.7 65.3	整理整頓・片づけ 59.0	60.6 57.4
2	整理整頓・片づけ※ 全体 55.7	男子 56.3 女子 55.0	ほめ方・しかり方 49.5	47.2 52.0	整理整頓・片づけ 60.1	60.8 59.4	整理整頓・片づけ 57.0	55.1 59.2	犯罪や事故 56.7	51.0 62.0
3	友だちとのかかわり方 全体 41.1	男子 38.3 女子 44.0	整理整頓・片づけ 48.2	49.9 46.4	ほめ方・しかり方 49.2	49.4 49.0	友だちとのかかわり方 47.9	45.2 50.8	友だちとのかかわり方 45.5	42.8 48.1
4	放射性物質の影響 全体 38.1	男子 37.0 女子 39.1	友だちとのかかわり方 47.3	46.1 48.6	友だちとのかかわり方 47.5	46.1 48.7	ほめ方・しかり方 46.7	46.6 46.8	ほめ方・しかり方 43.8	39.7 47.6
5	ほめ方・しかり方 全体 35.9	男子 35.4 女子 36.3	放射性物質の影響 46.1	46.1	放射性物質の影響 46.0	43.7 48.2	放射性物質の影響 42.5	41.3 43.8	放射性物質の影響 43.0	44.5 41.6
6	子どもの性格・態度 全体 34.2	男子 35.0 女子 33.5	食事のしつけ 44.1	49.6 38.4	食事のしつけ 43.8	44.6 43.1	子どもの性格・態度 39.5	42.1 36.6	子どもの性格・態度 38.1	40.8 35.8
7	家庭学習の習慣 全体 33.2	男子 34.4 女子 32.2	子どもの性格・態度 39.0	39.9 38.1	子どもの性格・態度 39.7	38.3 40.9	食事のしつけ 39.2	41.3 36.9	食事のしつけ 36.2	39.7 33.0
8	食事のしつけ 全体 30.8	男子 32.9 女子 28.6	しつけの仕方 33.9	34.4 33.4	しつけの仕方 34.3	36.5 32.2	しつけの仕方 29.5	28.1 30.8	家庭学習の習慣 32.0	33.1 31.0
9	子どもの進路 全体 30.3	男子 31.1 女子 29.5	食事のとりかた 32.7	31.2 34.4	家庭学習の習慣 31.0	28.1 33.6	家庭学習の習慣 29.3	28.7 29.9	お金の使い方 29.6	29.7 29.5
10	学校の宿題や予習・復習 全体 29.7	男子 33.1 女子 26.1	食の安全性 32.6	32.1 33.1	学校の宿題や予習・復習 29.2	30.5 28.0	学校の宿題や予習・復習 28.0	31.7 24.2	学校の宿題や予習・復習 27.4	29.5 25.7

注1) 複数回答。 注2) 項目は一部、略記した。詳細は調査票見本を参照。 注3) ※は同率、同位。 注4) () 内はサンプル数。

自分のことよりも子どもの健康やしつけ、さらに早い時期からの学習に高い関心が寄せられていた。

.....
男子は学習習慣と勉強の成績

女子も学習中心で交友関係も継続

<中学生>

中学生では、「整理整頓・片づけ」が各学年の1位にあげられており、子どもの整理整頓への悩みは中学生でも引き続けている。

それ以外の項目についてみると、中1生の男子の母親で、すでに「家庭学習の習慣」「学校の宿題や予習・復習」「勉強の成績」が女子より高く上位を占めている。中2生では、それらのなかでも、「学校の宿題や予習・復習」で女子と12.2ポイントの差が出ていた。中学生になると男子については学習関連の気がかりが目立って多くなる。大学以上への進学期待は男子のほうが高く、将来に向けての期待や不安がすでに始まっているためと思われる。

ただし、将来への「子どもの進路」や「受

験準備」は学年が上がるにつれて性別を問わず関心事の上位にあげられていた。

一方で、「犯罪や事故に巻き込まれること」の気がかりは小学生より低下して、中3生では3位である。しかし、男子に比べると女子の母親では10ポイント程度高い。小学生とは異なる性犯罪などの観点から質的不安を抱えているようだ。

また、「友だちとのかかわり方」は、学年が上がるごとに3位→7位→10位と下降していくが、小学生の結果と同様に女子の母親のほうが多い気がかりである。

「携帯電話やパソコンの使い方」は、2007年では、3学年とも女子の母親のほうが多かったが、今回も中1生と中2生で女子のほうが高い。パソコンも携帯電話も使用用途が広がり、さらなる情報リテラシーが必要とされている。

別の設問で、パソコンや携帯電話を使う良し悪しをたずねているが、中学生では「どちらかという悪いことが多い」と回答していた母親に「携帯電話やパソコンの使い方」の気がかりが多かった。

表1-1-2 現在の子育ての気がかり（全体、学年別/性別）②

(%)

順位	小5生 (男子338 全体673) (女子334)	小6生 (男子346 全体721) (女子372)	中1生 (男子615 全体1,181) (女子559)	中2生 (男子569 全体1,070) (女子497)	中3生 (男子477 全体935) (女子456)
1	犯罪や事故 56.8 51.2 62.6	犯罪や事故 58.9 54.6 62.9	整理整頓・片づけ 56.1 55.3 56.9	整理整頓・片づけ 56.0 57.5 54.3	整理整頓・片づけ 52.3 50.5 53.9
2	整理整頓・片づけ 56.5 59.2 53.6	整理整頓・片づけ 55.2 58.4 52.2	犯罪や事故 49.4 42.9 56.4	犯罪や事故 49.2 44.3 54.7	子どもの進路 50.2 50.1 50.2
3	友だちとのかかわり方 44.3 41.1 47.3	放射性物質の影響 40.6 39.0 41.7	友だちとのかかわり方 38.6 34.1 43.1	子どもの進路 47.5 47.3 47.9	犯罪や事故 49.7 45.1 54.8
4	ほめ方・しかり方 40.6 43.8 37.4	友だちとのかかわり方 39.4 36.4 42.2	家庭学習の習慣※ 38.3 39.8 36.9	勉強の成績 42.0 43.6 40.0	受験準備 48.6 49.1 48.0
5	放射性物質の影響 39.7 38.2 41.3	ほめ方・しかり方 33.1 34.4 31.5	学校の宿題や予習・復習※ 38.3 42.4 33.6	家庭学習の習慣 39.3 40.9 37.8	勉強の成績 42.8 45.7 39.7
6	家庭学習の習慣 34.0 37.3 30.8	家庭学習の習慣 32.3 35.3 29.8	勉強の成績 34.8 37.6 31.8	携帯・パソコンの使い方 37.5 35.0 40.2	携帯・パソコンの使い方 37.8 38.6 37.1
7	子どもの性格・態度 33.9 36.4 31.4	子どもの性格・態度※ 30.5 32.1 29.0	携帯・パソコンの使い方 34.4 30.7 38.5	友だちとのかかわり方 36.3 34.4 38.6	生活リズム 37.2 37.5 36.8
8	食事のしつけ 32.2 34.0 30.2	生活リズム※ 30.5 26.0 34.7	子どもの進路※ 33.6 33.3 34.0	学校の宿題や予習・復習 35.1 40.8 28.6	子どもの教育費※ 33.5 31.2 36.0
9	家での遊び 30.9 40.2 21.6	人間関係★ 27.7 29.2 26.3	放射性物質の影響※ 33.6 31.7 35.2	生活リズム 34.9 34.6 35.2	家庭学習の習慣※ 33.5 34.2 32.7
10	子どもの進路 30.0 30.8 29.3	からだの健康★ 27.6 26.0 29.3	子どもの性格・態度 31.7 33.2 30.2	放射性物質の影響 32.4 31.8 33.2	友だちとのかかわり方 32.2 28.7 36.0

注1) 複数回答。 注2) ★印は母親自身の悩みや気がかり。 注3) 項目は一部、略記した。詳細は調査票見本を参照。
 注4) ※は同率、同位。 注5) ()内はサンプル数。

第2節 現在の一番の気付き

小学生についての一番の気付きは健康や安全に加えて友だち関係、しつけ。中学生については将来に向けた進路や勉強。第2子の母親や働く母親は「子どもの教育費」が悩み。

小学生では友だち関係、性格態度

中学生では子どもの進路、勉強の成績

子育て生活のなかでの「悩みや気付き」を複数回答してもらった後に、そのなかから「現在もっとも気にかかっていること」を一つだけ選んでもらった(図1-2-1)。

図の中の折れ線グラフは、小・中学生9学年の全体値で、2本の棒グラフは、それぞれ小学生と中学生の数値を表している。

小学生の上位5項目には、①「友だちとのかかわり方」7.6%、②「放射性物質による健康への影響」7.2%、③「子どもの性格、現在の態度や様子」6.1%、④「犯罪や事故に巻き込まれること」6.0%、⑤「ほめ方・しかり方」5.8%の順であげられていた。

放射性物質や犯罪・事故など命や健康への不安感と日々の子どもの態度や言動に関する項目で占められていた。なお、2007年では、全体の1位は「犯罪や事故に巻き込まれること」が13.4%(小学生16.3%、中学生9.9%)であったが今回は4位となり、代わって「放射性物質による健康への影響」が2位にあげられた。

中学生の上位は、①「子どもの進路」8.3%、②「勉強の成績」6.0%、③「受験準備」5.5%、④「子どもの教育費」5.1%、⑤「放射性物質による健康への影響」4.6%という結果となり、小学生と共通した項目は、放射性物質の影響のみであった。中学生の母親の関心事は、2007年同様に、将来に向けた進路や勉強など学習関連の気付きに集中していた。

第1子はしつけ、交友や受験

第2子以降は教育費や母親自身のこと

母親は、第1子の成長や子育てとともに関心に変化していく。そのため第1子の親は、「食事のしつけ」「子どもの性格、現在の態度や様子」「友だちとのかかわり方」「いじめ」「外での遊び」「しつけの仕方」「ほめ方・しかり方」「携帯電話やパソコンの使い方」「受験準備」と気付き項目が多く、第2子の親では「子どもの食事のとり方」「子どもの教育費」、母親自身の「からだの健康」「これからの生きがいや始めたいこと」があげられていた。第3子以降は、「歯磨き・手洗いの習慣」「学校の宿題や予習・復習」、母親自身の「人間関係」「こころの健康」「これからの生きがいや始めたいこと」が多くあげられており、子どもから自分のことへと関心が移行しつつあった。なお、3人以上のきょうだいがいる家庭は「お金の使い方」を他より多く回答していた(図表省略)。

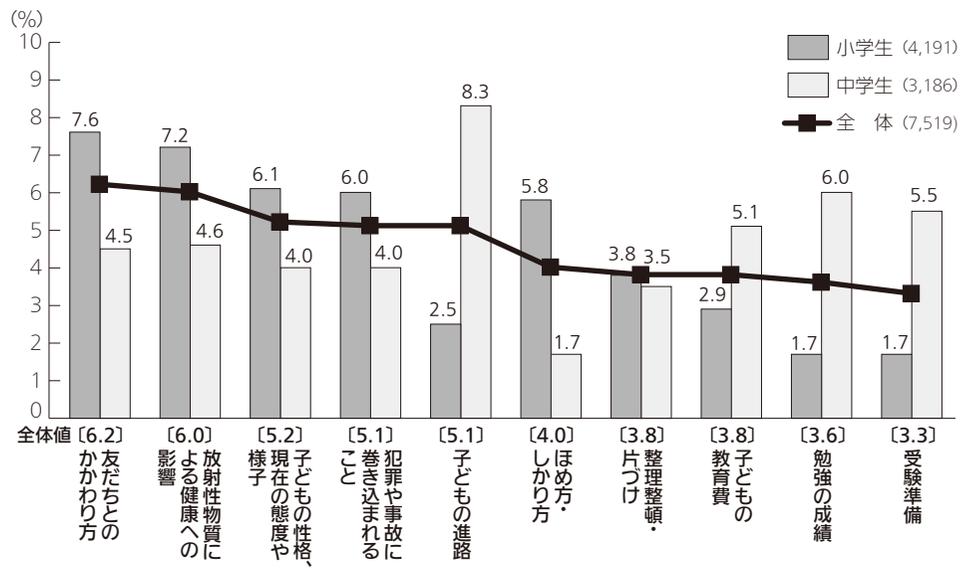
働く母親は教育費や仕事との両立

専業主婦はしつけ方と安全が第一

母親の就業状況別に一番の気付きを比べたものが図1-2-2である。

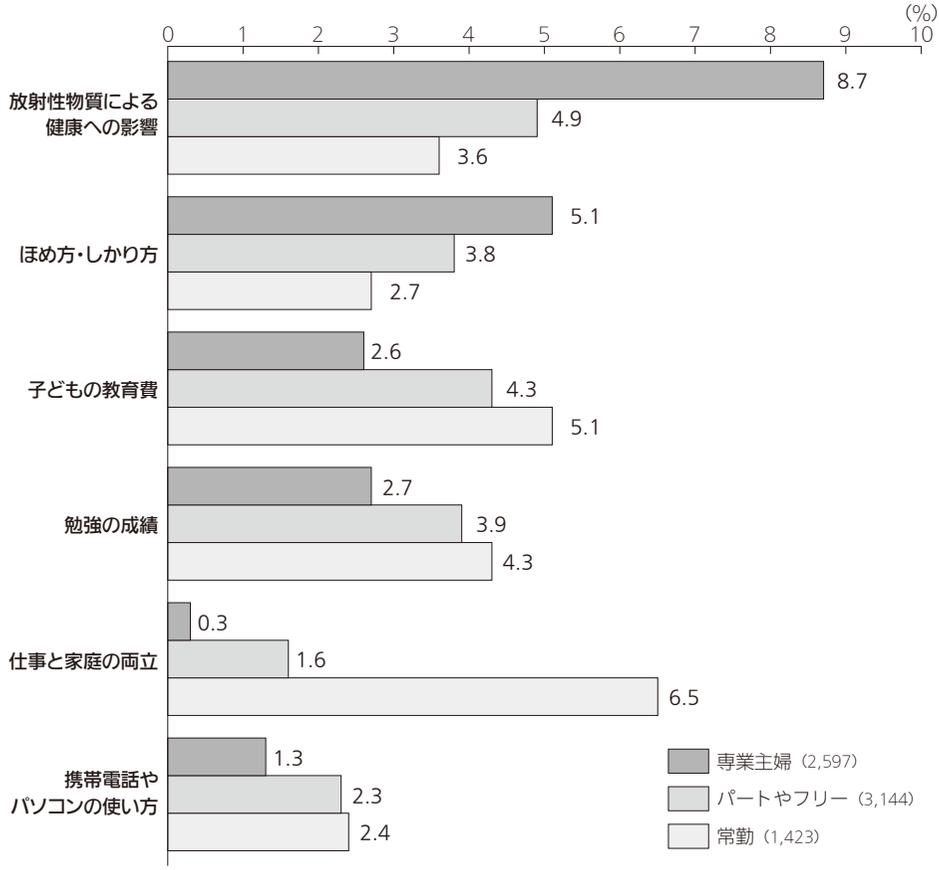
専業主婦は、「放射性物質による健康への影響」「ほめ方・しかり方」が多く、常勤は、「子どもの教育費」「勉強の成績」「仕事と家庭の両立」「携帯電話やパソコンの使い方」が多かった。パートやフリーの母親はそれ

図1-2-1 現在の一番の気がかり（全体、学校段階別）



注1) 38項目中から1つ選択。全体値の上位10項目を图示した。
 注2) ()内はサンプル数。

図1-2-2 現在の一番の気がかり（母親の就業状況別）



注1) 38項目中から1つ選択。6項目を图示した。
 注2) ()内はサンプル数。

らの中間の位置を占めていた。

.....
子どもの性格・態度に悩む男子の母親
女子の母親は安全性と友だち関係重視

<小学生>

多くの気がかりや悩みのなかから一つだけを選んでもらい学年と性別で比較した上位10項目が表1-2-1と表1-2-2である。

学年別の変化と男女差をみると、小1生男子の母親は学校生活の環境に適応するために、「子どもの性格、現在の態度や様子」や「友だちとのかかわり方」を気にかけている。小2生の男子では「子どもの性格、現在の態度や様子」に加えて、「ほめ方・しかり方」「しつけの仕方」などしつけ方略への関心が女子の母親より高くなる。さらに小2生全体の8位には「学校の宿題や予習・復習」があげられており、学習関係が初めて出ていた。中学年以降のむずかしい時期

には、男子の母親は子どもの性格や態度に対処しながら、ほめたりしかったりするかが気がかりである。同時に高学年になると、進路や教育費も重要な関心事となっていた。

女子では全学年をとおして「放射性物質による健康への影響」と「犯罪や事故に巻き込まれること」が男子に比べて高く、母親の不安が感じられる。

表中の各学年をみると、女子は「子どもの教育費」が、小1生、小4生、小5生で男子より高かった。他の習い事の質問では、小学生の女子は芸術系の習い事などが男子より多い傾向にあった。また、「整理整頓・片づけ」は小1生、小3生、小5生、小6生で男子より多かった。「友だちとのかかわり方」は、女子の数値をみると、小2～小4生までは女子の1位の数値となっている。小3生では10人に1人の親が一番の気がかりにあげており、同じ女性である母親にとって女子の友だち関係は、極めて関心が高いことが示されていた。

表1-2-1 現在が一番の気がかり（全体、学年別/性別）①

(%)

順位	全体 (全体7,519)	男子3,806 女子3,692	小1生 (全体666)	男子343 女子323	小2生 (全体691)	男子334 女子357	小3生 (全体689)	男子356 女子331	小4生 (全体751)	男子353 女子397
1	友だちとのかかわり方 全体 6.2	男子 5.5 女子 7.0	放射性物質の影響 8.9	8.2 9.6	友だちとのかかわり方 8.8	8.4 9.2	友だちとのかかわり方 9.4	9.0 10.0	子どもの性格・態度 7.2	7.6 6.8
2	放射性物質の影響 全体 6.0	男子 5.4 女子 6.7	ほめ方・しかり方※ 8.6	8.2 9.0	放射性物質の影響 8.4	7.5 9.2	放射性物質の影響 7.3	5.3 9.4	友だちとのかかわり方 7.1	5.7 8.3
3	子どもの性格・態度 全体 5.2	男子 6.5 女子 3.9	友だちとのかかわり方※ 8.6	9.3 7.7	犯罪や事故 7.1	5.7 8.4	子どもの性格・態度 6.8	9.0 4.5	放射性物質の影響 5.6	2.8 8.1
4	犯罪や事故※ 全体 5.1	男子 3.9 女子 6.3	犯罪や事故 6.6	5.5 7.7	子どもの性格・態度 6.9	8.4 5.6	ほめ方・しかり方 6.4	5.9 6.9	整理整頓・片づけ 5.2	5.4 4.8
5	子どもの進路※ 全体 5.1	男子 5.4 女子 4.7	子どもの性格・態度 6.5	9.6 3.1	ほめ方・しかり方 5.8	6.3 5.3	犯罪や事故 5.8	5.3 6.3	ほめ方・しかり方 4.9	5.1 4.8
6	ほめ方・しかり方 全体 4.0	男子 4.2 女子 3.8	食事のとり方 5.0	4.7 5.3	しつけの仕方※ 3.3	4.2 2.5	整理整頓・片づけ 4.6	3.4 6.0	犯罪や事故 4.1	4.0 4.3
7	整理整頓・片づけ※ 全体 3.8	男子 2.9 女子 4.6	しつけの仕方 3.3	2.3 4.3	仕事と家庭の両立※ 3.3	3.6 3.1	食事のとり方※ 2.9	3.4 2.4	子どもの進路 3.6	4.2 3.0
8	子どもの教育費※ 全体 3.8	男子 3.5 女子 4.2	整理整頓・片づけ※ 2.7	2.0 3.4	学校の宿題や予習・復習 2.7	3.3 2.2	しつけの仕方※ 2.9	3.1 2.7	仕事と家庭の両立★ 3.3	4.5 2.3
9	勉強の成績 全体 3.6	男子 4.2 女子 3.0	仕事と家庭の両立※ 2.7	2.3 3.1	生活リズム・寝起き時間※ 2.2	2.1 2.2	仕事と家庭の両立★ 2.6	2.0 3.3	家庭学習の習慣 2.8	2.8 2.8
10	受験準備 全体 3.3	男子 3.2 女子 3.4	子どもの教育費※ 2.6	1.7 3.4	アレルギー※ 2.2	1.8 2.5	家庭学習の習慣 2.2	2.8 1.5	子どもの教育費 2.5	1.4 3.5
			人間関係★※ 2.6	2.9 2.2	家庭学習の習慣※ 2.2	2.4 2.0				

注1) 38項目中から1つ選択。 注2) ★印は母親自身の悩みや気がかり。 注3) 項目は一部、略記した。詳細は調査票見本を参照。
 注4) ※は同率、同位。 注5) ()内はサンプル数。

男子では性格・態度と学習力の兼ね合い

女子では犯罪・事故、整理整頓の習慣

<中学生>

中学生になると、各学年で「勉強の成績」や「子どもの進路」が上位にあげられているように、母親の関心事は学習面や進学に集中してくる。

中1生の男子の母親は、全体の10位までの項目のなかで「子どもの性格、現在の態度や様子」がもっとも高い数値であり、反抗期を迎えて母親が当惑するようすがうかがえる。同じ中1生では、「勉強の成績」と「家庭学習の習慣」は男子のほうが女子より高く、いずれも受験に向けての始動態勢を示している。

中2生で男子のほうが女子より多くあげられているのは、「子どもの進路」「勉強の成績」「家庭学習の習慣」「受験準備」といった項目である。

中3生の学年内順位では、「受験準備」や「勉強の成績」の数値は高いが、加えて、8

位に「子どもの性格、現在の態度や様子」があげられており、子どもの性格や態度と学習力の兼ね合いに悩む姿が出ていた。

一方、女子の母親が多い内容は、3学年をとおして「犯罪や事故に巻き込まれること」である。これを学年での推移で見ると、中1生で8位→中2生が6位→中3生では5位に上昇していた。小学生時代より行動範囲が広がり、帰宅時間も遅くなるなかで、子どもの身の安全を心配する親心であろう。

「友だちとのかかわり方」は中1生で4位、中2生では3位にあり、小学校から引き続いて親の関心事である。部活やクラス以外の、親が把握できない交友関係も増える。また逆に孤立するなど小学校とは異なる友人関係が展開するのが中学である。しかし、中3生では10位になる。「子どもの進路」は男子より多い関心事で「子どもの教育費」を含む受験関連が増えている。

また、女子は小学校高学年から続く「整理整頓・片づけ」が中学でも男子より明らかに多い親の悩みとしてあげられていた。

表1-2-2 現在の一番の気がかり（全体、学年別／性別）②

(%)

順位	小5生 (男子338 全体673) (女子334)	小6生 (男子346 全体721) (女子372)	中1生 (男子615 全体1,181) (女子559)	中2生 (男子569 全体1,070) (女子497)	中3生 (男子477 全体935) (女子456)
1	放射線物質の影響 7.6 7.4 7.8	犯罪や事故 8.3 5.2 11.0	勉強の成績 5.8 6.5 5.0	子どもの進路 8.1 9.5 6.6	子どもの進路 13.3 12.6 14.0
2	友だちとのかかわり方 6.7 5.9 7.5	放射線物質の影響 6.0 5.5 6.2	放射線物質の影響※ 5.4 5.2 5.7	勉強の成績 7.4 8.1 6.6	受験準備 12.3 12.6 11.8
3	ほめ方・しかり方 6.2 7.1 5.4	子どもの教育費※ 5.4 6.9 4.0	子どもの性格・態度※ 5.4 7.6 3.0	友だちとのかかわり方※ 5.1 4.2 6.2	子どもの教育費 6.5 6.1 7.0
4	子どもの性格・態度 4.9 5.6 4.2	友だちとのかかわり方※ 5.4 4.9 5.9	友だちとのかかわり方 5.3 4.1 6.8	家庭学習の習慣※ 5.1 6.5 3.6	勉強の成績 4.7 5.5 3.9
5	犯罪や事故 4.0 2.7 5.4	整理整頓・片づけ 5.0 4.0 5.9	子どもの教育費 5.2 4.9 5.5	放射線物質の影響 4.3 4.9 3.6	犯罪や事故※ 3.7 2.9 4.6
6	受験準備※ 3.7 2.7 4.8	子どもの進路 4.4 4.9 4.0	家庭学習の習慣 4.5 5.4 3.6	犯罪や事故 4.1 3.0 5.4	放射線物質の影響※ 3.7 4.2 3.3
7	子どもの教育費※ 3.7 3.3 4.2	子どもの性格・態度 4.3 5.2 3.5	子どもの進路 4.4 4.4 4.1	受験準備 3.7 4.0 3.4	携帯・パソコンの使い方 3.6 4.0 3.3
8	子どもの進路 3.6 4.1 3.0	受験準備 3.9 2.9 4.8	犯罪や事故※ 4.1 2.9 5.5	子どもの教育費 3.6 3.2 4.0	子どもの性格・態度 3.5 4.2 2.9
9	整理整頓・片づけ 3.3 2.1 4.5	ほめ方・しかり方 3.1 4.9 1.3	携帯・パソコンの使い方※ 4.1 3.6 4.5	携帯・パソコンの使い方 3.3 3.2 3.4	整理整頓・片づけ 3.3 2.1 4.6
10	からだの健康★ 3.1 4.1 2.1	家庭学習の習慣 2.6 4.0 1.3	整理整頓・片づけ 4.0 3.6 4.5	整理整頓・片づけ 3.2 1.6 5.0	生活リズム・寝起き時間※ 2.6 2.7 2.4 友だちとのかかわり方※ 2.6 1.9 3.3

注1) 38項目中から1つ選択。 注2) ★印は母親自身の悩みや気がかり。 注3) 項目は一部、略記した。詳細は調査票見本を参照。
注4) ※は同率、同位。 注5) ()内はサンプル数。

現在の一番の気付きの自由記述内容

自由記述には、母親の気付きの核心が綴られていた。「子ども自身の個人特性」、「母親自身の関心」、「その他の人や置かれた社会環境」、また、それらが相互に影響を及ぼしている包括的な表現もみられた。

母親の不安感と期待感が凝縮

子育ての一番の気付き

現在の子育ての気付き 38 項目の中で、もっとも気にかかっていることを1つだけ選び、その番号を回答欄に記入してもらい、その具体的な内容を書いてもらった。

「現在の一番の気付き」の質問に何らかの回答をした 6,030 人のなかで 3,854 人 (63.9%) の母親が項目ごとに現在の心情を綴っていた。

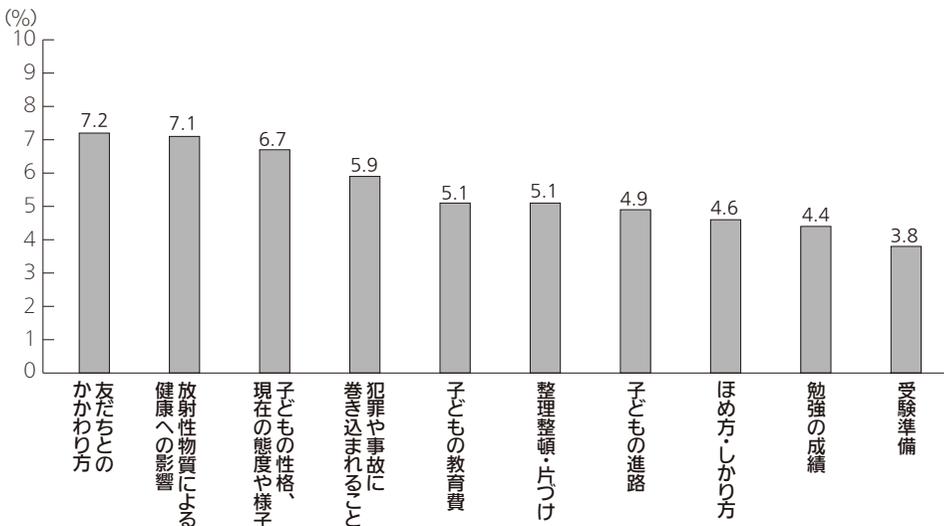
図 1-2-3 は自由記述の回答者にして現在の一番の気付きをみた場合の上位 10 項目である。図 1-2-1 の「現在の一番の気付き」の順位と比べると、5 位から 8 位までの項目で順位の入替わりがあるが、基本的には関心が高かった項目ほど多くの母親の心の内が書かれていた。それら上位 10 項目中から、特徴的な 6 項目の記述内容を以下に列記して紹介する。

母親は気付きや関心事をどのような視点から書いているのであろうか。文章の内容に限らず、母親が抱く気付きの原因の所在は、①子ども自身、②母親自身、③その他、の3つに大きく分けられる。

さらに、記述内容の基底には、子どもがうまくいかないと自分の責任なのではないかという意識と同時に、母親は子どもの成功も自分と同一化してともに受け止めている傾向もみられる。

子育ての不安感と期待感は表裏一体ではあるが、子育てをしながら子どもの日常のようすを、①子どもの個人特性としてみているか、②母親自身の悩みや関心事と受け止めているか、③その他の人や置かれた社会環境に起因していると言及しているかの視点で、以下の 6 項目について「代表する記述内容」を抽出した。文章はそのままであるが、紙幅に限りがあるために、長文については一部分を記載した。

図 1-2-3 現在の一番の気付き (自由記述回答者のみ)



注 1) 38 項目中から 1 つ選択。 注 2) サンプル数は 3,854 人。

友だちとのかわり方

1人っ子で自己中心

1人っ子のせいか、友だちとのコミュニケーションのとり方があまり上手でない。自分中心に物事を考える。
(男子・小1生)

友だちとうまくかわれない

友だちが少ない。友だちと上手にかかわれず、仲間外れや嫌がらせの対象になることがある。
(女子・小3生)

親の関与どこまで？

友だちどうしのケンカにどこまで親が入っているのか。
(男子・小3生)

本当の友だちかどうか

一見、仲良しグループですが、子どもに分らないよう陰口をたたく子たちがいて、はがゆく感じています。子どもはお人好しの性格なので、自分が悪口を言われていることを知りません。
(女子・小3生)

仲良くしていたと思ったら、急に避けられたり、同じ部活でも、ほとんど口をきかずに過ごしたり、他の子を1人にしたいから仲間に入れてくれたり。周りに振りまわされぬよう気をつけたい。
(女子・中2生)

好ましくない友だちとのつきあい

一緒に遊ぶことが多い同級生の一人が、万引きや、問題行動のある子なので、つき合い方が心配。自分の子どもは、その子を信頼していることも、疑問。
(男子・中2生)

携帯などに縛られる友だち関係

今どきの女の子は携帯を早くから持ち、いつでも一緒にいないと友だちではない、という感じで、それにつきあっていると、本来の学生がすべき事ができない。
(女子・小5生)

親友ができない

親友と呼べるような友だちがいるのか？
(男子・小5生)

子どもの性格、現在の態度や様子

消極的・自己主張がうまくない

クラスメイトにたたかれたりしてもやりかえさない。親としては歯がゆい。本音を言えば、同じだけやりかえしてほしい。
(男子・小2生)

やりたいことが優先

することが雑で、やりたい事ばかり先にしてしまい、しなければならぬ事をする時間がとれなくなる。
(女子・小5生)

反抗期のために親子でイライラ

子どもをしかると、子どもがイライラするようで大声でさげんんだり、イスを投げたり反抗するようになってきた。
(男子・小3生)

何事も自分から進んでやろうとしない。勉強やお手伝いなど、こちらから言わないとやらない…。また、言うといライラしてキレたりするので、いつも言葉のぶつかり合いになりお互いにストレスになっている。
(女子・小4生)

言葉使いが悪い。親にむかって「死ね」「バカ」「いなくなれ」など言う。
(男子・小3生)

うそをつく、見栄を張る

親にうそをつく。言われて納得したことが持続しない。何を考え、求めているのか全くわからない。
(男子・中1生)

自分のことを良くみせようとするため、大げさな事を言ってしまう事。
(男子・中1生)

きょうだいげんかに困る

小4の妹とけんかを毎日するので、困っています。言葉使いが荒く、手もでるので、毎日、叱っています。
(男子・中1生)

心身発達上の心配

ADHDの疑いがあり、友だちとの関係やいじめ、忘れ物や学習態度全般につながった悩みとなっている。
(男子・小4生)

放射性物質による健康への影響

水道水が心配

学校は水道水を飲んでよいと、子どもはガブのみしていますが、10年20年…と保障してくれるのか？給食も産地がどこの物を使用しているか分からず不安です。
(女子・小1生)

子どもの将来や次の世代への影響

女の子なので、将来子どもを産む時に影響が心配。
(女子・小2生)

放射性物質のことです。セシウムなど、私たちの体に、どのような影響があるのか、本当に心配です。
(女子・小3生)

給食の安全基準

自宅での食材も心配ですが、学校での食材・牛乳は本当に大丈夫なのでしょう？正直、水筒を持参で牛乳も飲ませたくないが、周囲に合わせている。
(女子・小3生)

給食の食材等安全とされる基準が本当に安全な基準なのか。
(男子・小5生)

雨水・食べ物・砂場は？

部活で雨に打たれたり、日焼けなど。食べ物、水など。
(女子・中1生)

目に見えない不安感

基準値内だと言われても目に見えないので恐ろしい。
(男子・中1生)

目に見えないものなので、心配です。後々、彼女や彼女の子どもに影響が及ばないことを願い、食生活を気にしたり、子どもと色々話したりしています。
(女子・中2生)

政府からの情報の真偽

政府の発信している情報が本当に正しいかどうか不安です。
(男子・中1生)

子どもの教育費

経済力が進路を決める

親の経済力が子どもの夢を決める程である事。
(女子・小5生)

金銭面に余裕があれば進路の選択の幅も広がるのではと思う。
(女子・中3生)

経済不況で教育費負担感増大

震災以来、主人の会社の状況が悪化。まだまだ先の長い教育費支出を考えると不安になります。
(男子・小6生)

夫が転職をし、収入が安定しない為、今後の教育費、生活費がとても不安です。
(男子・中2生)

ひとり親家庭、きょうだいが多い家庭

母子家庭なので教育費をどうやって捻出するか。
(男子・小5生)

3人の子どもにかかる給食費、諸経費、塾代。
(男子・中1生)

来年、上の子が高校受験、その後下の2人も順番に進学して行く上で、どの位教育費が必要になってくるのか。
(男子・中1生)

塾に通う費用の捻出

子ども手当もどうなるか分からず、私も夫も収入は減る一方で、ローンもかかえ…当の本人は全く勉強しませんが、塾に行かせることもできない。
(女子・中2生)

日本の教育費に不満

教育費には一体いくらかかるのかと考えると、頭が痛い。日本はとにかく教育費用がかかりすぎ。
(女子・中3生)

子どもの教育費がすごくかかる日本に不満があります。周りが塾に行ったりしているのに行っていない自分が遅れてしまうというのが現実。親としては出来るだけの事はしてあげたいものですから……。
(男子・中3生)

整理整頓・片づけ

片づけないので見つからない

学校で机まわりや引き出しの片づけがまだうまくできず紛失したり学校に置いてきたりしてしまう。
(男子・小2生)

ぬいだ衣類がそのままだったり、どこに置いたか忘れてさがす時間が多い為、全ての準備に時間がかかる。
(男子・小4生)

自分から片づけられない

足の踏み場もないほど部屋を散らかす。自分の物をリビングに持ってきて放ったままにしておく。1ヵ月に1回は言えば片づけるが自分からは片づけられない。
(女子・中1生)

空間認知力と整理能力

小さい頃から整理整頓が苦手。いくら言ってもなかなかうまくできない。頭の中が整理できていないのではと心配。
(男子・中3生)

代表すると「整理整頓・片づけ」に集約されるが、だらしないため生活、学習面で要領が悪く、せっかくの力を生かし切れていない気がする。
(男子・小6生)

親も片づけができない

私自身、片づけが出来ないためか、子どもも片づけが出来ません。「出した物を、元の場所にもどす事」すらです。あと、物がすてられず、ゴミ(物が入っていた袋や紙等)がたまっていきます。
(男子・小6生)

勉強の成績

勉強の進捗

勉強の進み具合が速く、短い時間で多くの事をこなさなければならないように遅れている。この先ついていけるのか非常に心配。
(男子・小2生)

先生の指導力

先生の力不足を感じます。
(女子・小2生)

他のクラスと比べ、かなり遅れている。
(女子・小6生)

苦手意識や現実逃避

どうすれば、勉強が好きになり成績が上がるのか？
(男子・小3生)

成績がよくないのにゲームやマンガ・パソコンに夢中になり勉強をまったくやらない。受験があるのにこのままでいいのかわからない。
(男子・中2生)

小さい頃から勉強は苦手で、現在も苦手だから、勉強したくない。したくないから、ますます苦手になるという悪循環から、どうしたらぬけ出せるようになるか心配です。
(男子・小6生)

部活との両立

このままで、勉強についていけるか？学習塾に通ってほしいが、本人行く気なし。部活がいそがしい。
(女子・中1生)

部活が毎日、土・日もあり疲れがたまり勉強に集中できない。かわいそう。
(女子・中2生)

親の期待感、勉強の意義

第1子のため、将来について、そのつど話をしているにもかかわらず、成績が伸びないため不安。
(女子・中3生)

成績次第で今後の進路の選択肢の幅も広がるから。
(女子・中2生)

第3節 しつけや教育の情報環境

家族や地域の友人・学校の先生がしつけや教育の情報源の中心。母親は就業状況により独自の情報環境を形成している。「インターネット」の利用率は2002年からの経年比較で5.9%→12.6%→20.3%と上昇。

しつけや教育情報の入手先上位3位は

「近所の友人・知人」「自分の親」「配偶者」

「しつけや教育」に関する情報はどこから(だれから)得ているのかを20項目から複数回答してもらった(図1-3-1)。

全体の結果は、①「近所の友人・知人」56.0%、②「自分の親」50.2%、③「配偶者」43.6%、④「近所ではない友人・知人」35.3%、⑤「学校の先生」34.0%が上位5項目であった。

小学生の親は上位4項目にあげられた身近で聞きやすい家族親戚や地域の友人・知人からの情報を中心に得ている。一方、中学生の親のほうは、受験や学習の専門的な教育情報を求めるために、「学校の先生」35.1%、「新聞」29.0%、図には示していないが「学習塾や家庭教師」20.8%を小学生より多くあげていた。また、「その他」と回答した人の具体的な記述内容を見ると、「自己流・自分自身の経験から」「職場の同僚や先輩」「教育関係の雑誌や宗教関連の小冊子・経典」「育児サークル・講演会・勉強会・学校説明会などの機会」「学童保育の指導員・保育所などの諸先生」といったものがみられた。その他、「実際に受験を終えたママ友、同じような思いをもつ友人」など、母親は自分が信頼する集団や人々との出会いのなかで、自分が必要とする情報環境を広げているようすがあらわれていた。

専業主婦とパートは「近所の友人・知人」

常勤は「自分の親」がトップ

母親の就業状況別に情報源を比べたのが図1-3-2である。

専業主婦と常勤の間では、情報の入手先に明らかな差が出ていた。「近所の友人・知人」「配偶者」「テレビ・ラジオ」は、専業主婦のほうが常勤より多く、「近所ではない友人・知人」と「学校の先生」は、常勤が専業主婦より多く入手する情報源で、それぞれの活動時間や領域が情報環境に関係していると思われる。パートやフリーの母親は、上記の項目に関しては、常勤と専業主婦の中間の位置を占めていた。

経年では「自分の親」「インターネット」が 上昇し「新聞」「テレビ・ラジオ」下降

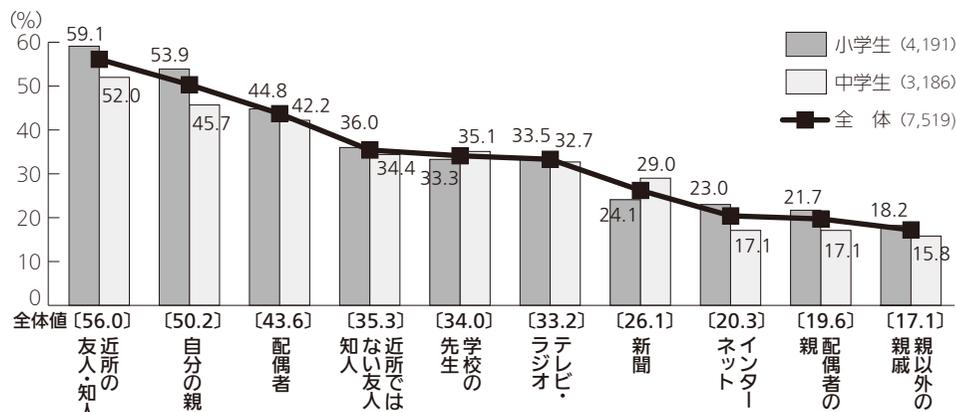
2002年、2007年と2011年を比較した結果が図1-3-3である。これら3回の調査を比べて情報源として上昇しているのは「自分の親」で、明らかに下降しているのは「新聞」や「テレビ・ラジオ」である。それに入れ替わって上昇したのは、インターネットである。「インターネット(関連のサイト、ブログなど)」は、2002年調査時には表記が「パソコン通信やインターネット」であったが、2007年には「インターネットやブログ」に変更した後、現在に至る。それらの用語変化を踏まえて、3回の経年調査を比較すると、5.9%→12.6%→20.3%

となっていた。

家でパソコンの使用率が71.1%と、インターネットへは携帯電話からのアクセスもできる利便性に加えて、無線LANが随所

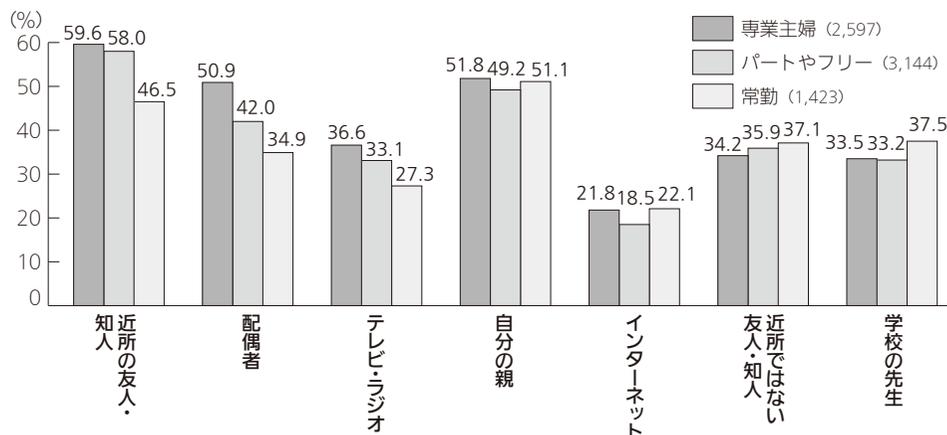
で使用可能となった環境インフラ整備も関係しており、この間のマスメディアの衰退など情報環境の変動が利用状況に影響を与えていると思われる。

図1-3-1 しつけや教育の情報源（全体、学校段階別）



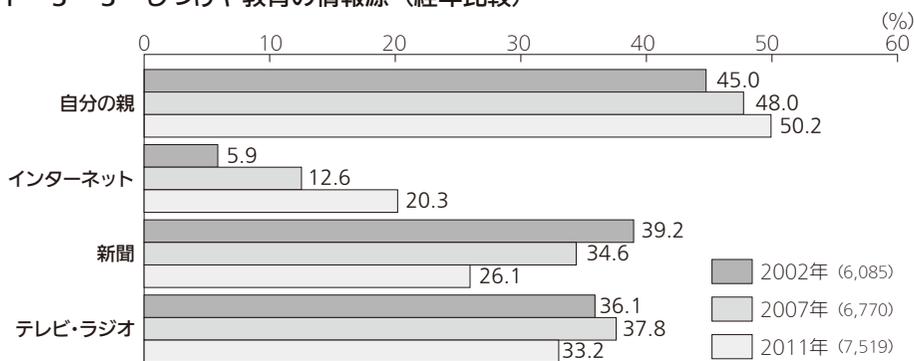
注1) 複数回答。20項目中、全体値の上位10項目を図示した。
注2) ()内はサンプル数。

図1-3-2 しつけや教育の情報源（母親の就業状況別）



注1) 複数回答。20項目中7項目を図示した。
注2) ()内はサンプル数。

図1-3-3 しつけや教育の情報源（経年比較）



注1) 複数回答。20項目中4項目を図示した。
注2) ()内はサンプル数。

第4節 とくに参考にするしつけや教育の情報環境

とくに参考とする情報源トップ3は「近所の友人・知人」「自分の親」「配偶者」。家族や地域を越えて必要な専門情報が入手できる「学校の先生」「インターネット」、マスメディアや書籍・雑誌など、独自の情報網を気付き解消に活用。

参考情報源は「家族と友人・知人、学校の先生」が変わらず上位

前節で、複数回答した「しつけや教育の情報源」のなかで、とくに参考にしている人やものを上位3つまで選んでもらった。

その第1位から第3位までを合算した結果を図1-4-1に示した。第1位から第3位まで合計した上位5項目は、①「近所の友人・知人」、②「自分の親」、③「配偶者」、④「近所ではない友人・知人」、⑤「学校の先生」であった。母親がしつけや教育の参考にする情報の入手先は、子どもと同じ学校や習い事で出会う地域の友人・知人、身近に安心して相談ができる自分の親や配偶者、子どもが一日の大半を過ごす学校の先生が中心となっている。

独自の生活価値観と社会的状況で形成する情報環境ネットワーク

とくに参考にする情報源第1位について、母親の就業状況別の差異を示したのが図1-4-2である。常勤は「自分の親」「近所ではない友人・知人」「学校の先生」「インターネット」の数値が他の就業状況より高く、専業主婦は「配偶者」、パートは「近所の友人・知人」が突出しており、それぞれに独自の情報活動環境をあらわしていた。

また、回答者の77.4%が核家族であるが、

「配偶者」は単身赴任、離別などで同居していないとか、「自分の親」も物理的に離れている場合も少なくない。さらには、母親が外国出身者の場合や、転居してきて近くにすぐに聞ける友人や知人がいない状況もある。そのようなときでも、マスメディア、育児・教育書、インターネットからは、居住環境や言語の壁を越えて必要な情報が入手できる利便性がある。

学年別の一番の気付き内容と参考にする第1位情報源の関係

参考にするしつけや教育の情報源の第1位の学年別推移を図1-4-3に示した。

とくに参考にしている上位3項目の情報源の推移を比べると、小学校の各学年では、それぞれの高い数値と低い数値が相互に異なって作用し合い、身近な情報源が補完し合う情報環境を提供していた。

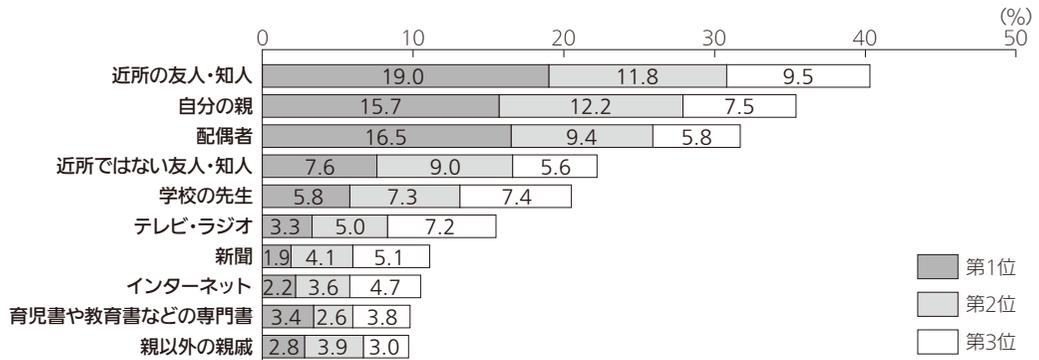
そこで、上位3項目が参考情報源としてもっとも高い数値を示す学年では、親はどのような「一番の気付きや関心事」を多く抱えているのかを検証した。その結果、「近所の友人・知人」をとくに参考とする情報源1位にあげた小5生の母親は「友だちとのかわり方」が多く、「配偶者」をあげた中3生の母親では、「運動機能やからだの成長発達」「子どもの進路」が多かった。また、「自分の親」の小2生の母親では、「子ども

の食事のとり方」「翌日の学校の用意や準備をすること」「しつけの仕方」「学校の宿題や予習・復習」「夫婦関係」と多岐にわたっていた（図表省略）。

によって、その時々の子育ての気がかりや関心事を、身近な人のなかからも、より適切な人を選びながら情報を得て参考しているようすの一端がうかがわれた。

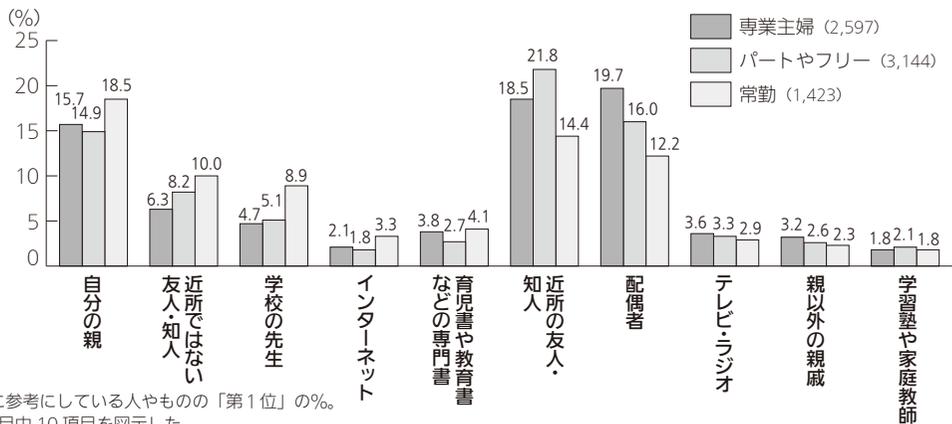
このように、母親は子どもの学年・成長

図1-4-1 とくに参考にしているしつけや教育の情報源



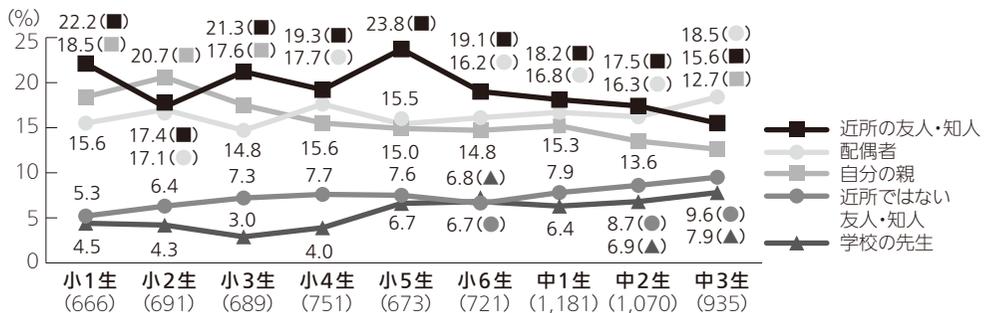
注1) 20項目のなかからとくに参考している人やものを「第1位」「第2位」「第3位」まで選択。合計値が大きかった上位10項目を図示した。
 注2) サンプル数は7,519人。

図1-4-2 とくに参考にしているしつけや教育の情報源・第1位（母親の就業状況別）



注1) とくに参考にしている人やものの「第1位」の%。
 注2) 20項目中10項目を図示した。
 注3) ()内はサンプル数。

図1-4-3 とくに参考にしているしつけや教育の情報源・第1位（学年別）



注1) とくに参考にしている人やものの「第1位」の%。
 注2) 20項目中5項目を図示した。
 注3) ()内はサンプル数。